

テーマ③ 『情報共有支援』 に関する報告

浪速区独自のICTツール（Aケアカード）の活用による多職種連携の取組み

浪速区在宅医療・介護連携相談支援室

（受託法人：浪速区医師会・医療法人満領会）

浪速区の現状



医療機関数： 62件
病院： 3件
歯科： 50件
調剤薬局： 49件
訪問看護： 7件
居宅介護： 39件



大阪市のほぼ中央にあり
通天閣が有名

大阪市人口： 2714497人

浪速区： 72563人

世帯数： 50137人

転入： 772

転出： 759

やや人口増

面積： 4.39km²

在宅支援診療所2： 7件

在宅支援診療所3： 9件

在宅支援病院： 1件

介護老健施設： 2件

特別養護老人ホーム： 4件

通所リハ： 4件

Aケアカードは

地域包括ケアシステムにおける
多職種連携のためのツール

それぞれの職種の
基本情報を共有する

+

必要な時に必要な情報を
チャットで連携

基本情報、薬剤情報および検査結果
をクラウドで一元的に管理

災害時対策も万全

どんなメリット？

医療と介護が手をつなぐ
Aケアカード

ナニワ タロウ
浪速 太郎
生年月日: 1947-09-29
性別: 男
番号: 2714589631-A000

- 各職種の基本情報が共有でき、お薬の重複がなくなり、無駄な検査もなくなります。
- チャットを通じて最新の状況を知ることができるため、的確な診療が行なえ、状況に応じたアドバイス、介護サービスを受ける事ができます。

医療情報

歯科情報

薬剤情報

看護情報

介護情報

【Aケアカードの現状】

参加機関数 登録患者数807人

医療機関 49/65(75%) 681

介護事業所 27/39(69%) 96

薬局 25/49(51%) 9

歯科医院 8/50(16%) 9

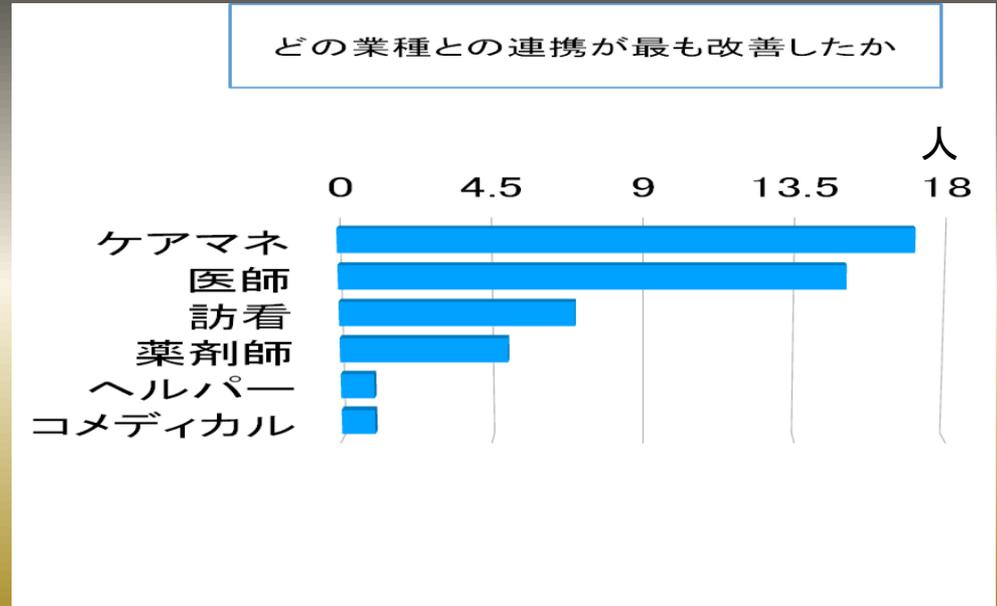
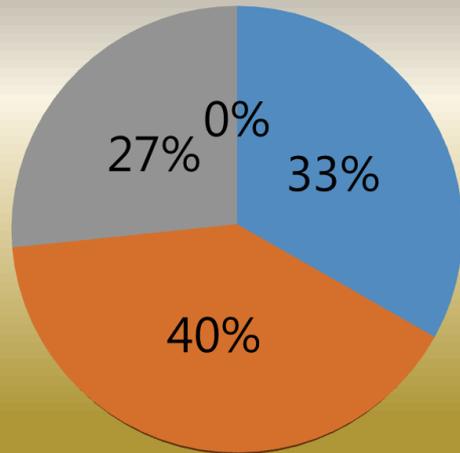
訪問看護ST 7/7(100%) 12

▫ のべかかりつけ登録件数 2019件

2019.11.30

Aケアカード使用後の連携状況

- 著明に改善
- 以前より改善
- 変化ない
- 悪化した



Aケアカードを利用している複数機関へアンケートを行った。
各機関は、医療情報、薬剤情報、血液検査データ、介護情報を共有できた。
些細な事柄もチャットで簡便に連絡を行え、連携の改善に寄与している。

地域住民への広報および介護職への研修

同時開催 平成30年度 認知症講演会 & 在宅医療介護講演会

つながろうご近所さん PART 7

～地域で寄りそうまちへ～

日 時 ●平成31年2月22日(金)
午後2時～4時30分(開場:午後1時30分)

場 所 ●練フボタ 大ホール

定 員 ●300名(当日先着順)
※申し込み不要

参加費 無料

第1部 認知症講演会(午後2時～)
映画上映「アリスのままで」
若年性アルツハイマー病と診断された50歳の言語学博士の苦悩と奮闘、そして彼女を支える家族との絆を描く人間ドラマを通じ、この病気について学習します。

第2部 在宅医療介護講演会(午後4時～)
Aケアカードの報告について
「Aケアカード-いちばん身近な安心」
藤吉 理夫 医師 (さくら市南郷市国民医療事務員)
若年性認知症の相談窓口について
木村 由美 (浪速区オレンジチーム認知症地域支援推進員)

第3部
浪速区医師会 浪速区社会福祉協議会 浪速区地域包括支援センター
浪速区薬剤師会 浪速区作業療法士会 浪速区社会福祉協議会
浪速区介護福祉協議会 浪速区介護職・介護福祉推進協議会
浪速区在宅医療・介護連携推進協議会 浪速区オレンジチーム



区役所1階



ヘルパー勉強会



地域老人会での講演会

まとめ

- コーディネーターは、浪速区だけでなく他区へのAケアカードの普及・各機関のパソコン設定を行うと併にAケアカードによる医療介護連携を促進し、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築、医療・介護関係者の情報共有の支援、在宅医療・介護連携に関する相談支援を行っている。
- Aケアカード利用施設からのアンケート結果では、多職種連携が円滑に行われるようになっている。
- ヘルパーを含む介護職に、基礎知識の向上のための研修会や医療介護および行政を交えた勉強会、懇親会を行い、顔の見える関係の促進を図っている。
- 地域住民への講演会において、地域包括ケアシステムの説明を元にAケアカードの広報を行っている。
- 緊急時の入院支援としてブルーカードシステムがある。ブルーカード登録病院および、未登録病院へのAケアカードシステムを含めたブルーカードシステムの普及活動を行っている。